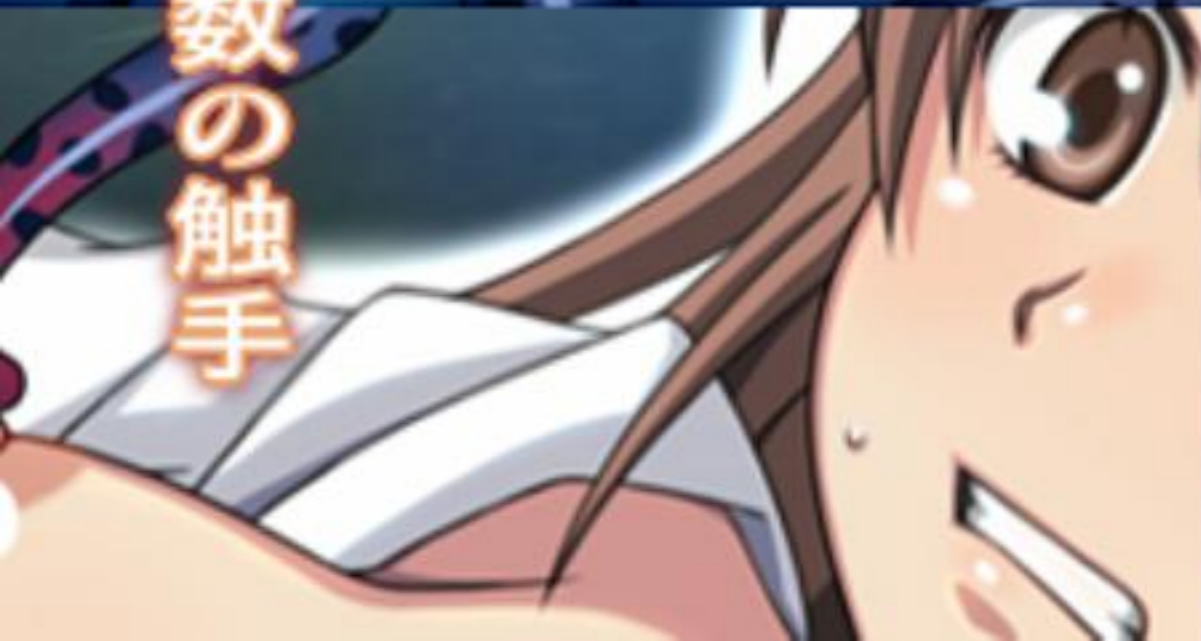




少女を嬲る無数の触手



とある少女は汚される……

突如、無数の触手が美琴に襲いかかった。まるで餌を捕らえるかのように、触手は次々と美琴のしなやかな肢体に絡みついていく。

「きやああっ！」

「なっ……何よ、これっ……？」

ぬら

ぬら

ぬら

ぬら



又回……又回……  
触手たちは美琴の若い身体を楽しむように、  
ゆっくりと肌をナメながら進んだ。

「んんっ……！」

触手の一つが美琴の胸にたどり着き、  
服の上から乳首を探し当てた。  
触手の先端部がクニッと動くと、  
美琴は短く声を上げた。

ゴクゴク

むにっ

くにゅっ♡

ゴクゴク

さらに別の触手が、  
美琴のなめらかな太もも伝い上がり  
スカートの中の下着に達する。  
「そんなトコ、ダメえー！ー！」

「ちよよ、ちよつと……！」  
触手に自由を奪われた美琴は  
下半身を持ち上げられるような  
格好をさせられた。開かれると  
両足を大きく開かれると  
スカートがまくれ上がり、  
艶かしいヒップと、  
白い下着が丸出しになった。  
中央には、女のたて筋が  
くつきりと浮かびあがる。

「やだっ……!!  
こんな恥ずかしい格好  
止めてよっ……!!」

美琴の頬が羞恥に染まった……。

触手の先端が、  
下着の中に隠された  
少女の卑猥な割れ目を  
確かめるように動いた。

「ああっ！」  
ピクン、と美琴の身体が  
反応する。  
イヤラシイ窪みに  
頭を半分うずめると  
触手はクニユクニユと  
愛撫を開始した。

「ふっああっ……？」

くみゅ♡

ぬっ♡

くにっ♡

「まっ…待って！  
こんなのっ…ひゃっ！」

今まで誰にも許したことの無い  
大切な部分を責められ、  
美琴は身体をよじらせて  
それから逃れようとした。

「んっ……んんー！」

美琴はもがいて抵抗をこころみたが束縛は解けなかった。触手は粘着質にまとわりつき美琴の下半身を幾度もなぶり続ける。

「くっふ……！」

時おり、女の最も敏感な突起を刺激されて美琴の身体は電気を流されたかのようにふるりつくと震えた。

ぬんっ  
ぬっ  
ぐにんっ  
にんっ

「あっ……ふうう……」

思わず美琴は足を閉じようとしたが、柔らかな太ももに絡んだ触手が、それを許さない。

「んはんっ！」

惨めな辱めは執拗に続いた……。

「やっ……!!」

触手たちは  
あらわになつた美琴の胸を  
ゆっくりと這い登り  
その先端にある乳首に  
吸い付いた。

「いふんっ……!!」

ニュチニュチと  
卑猥な音を立てて  
美琴の乳首が弄ばれ始める。

「だ……めえ……!!」

美琴の表情が、  
触手の動きに合わせて歪んだ。

ちゅ♡

ぬらん

ぬろ…

♡  
んニゅ♡

「くっ……ふ……  
ンンッ……！」

生まれて初めてうける乳首責めに、  
美琴は唇を噛んだ。  
刺激で隆起した乳首を  
触手に円を描くように転がされ、  
少女の身体が切なく悶える。

「ンッ……！ンッ……！」

こらえようとしてみても  
どうしても声が出てしまう。

「やめて……よお……！」

性の衝動に翻弄され、  
美琴はプライドを踏みにじられた。

知  
にち♡  
ヌム  
♡♡



「あっ……ふあ……!!  
あああっ……!!」

さらに触手の動きが活発になった。  
美琴の小ぶりの乳房は  
きつく絞りあげられて形を変え、  
その頂点に立つ突起は、  
容赦なく蹂躪された。

「やっ……んあッ!  
ひっ……うシンン!!」

乳首から走り抜ける  
鋭い快樂の波に  
美琴の身体が何度も跳ね上がる。

「ちっ、乳首っ……!!  
んはああっ……!!」

立て続けの責めに  
美琴は女の悲鳴を上げた。

くしい♡♡

にゅっ

フロッ

ぬぎゅっ

「んっ……はっ……あんー!」

美琴は上体を前かがみに押さえつけられ、尻を後方に突き出すような格好をさせられた。

「ふっ……ああっ!」

身体のいたる所をヌメヌメとした触手が這いずり回り  
○学生の瑞々しい肌を余すことなく  
味わい尽くそうとする。

美琴がもがけばもがくほど、触手たちは興奮を増したように、より貪欲に少女をむさぼった。

「ひゃっ……! あっ、あああっ……!」

ぬら

ぬろ

ふに♡

ふに♡  
ふに♡

どゅっ

「えっ……？」

一本の触手が滑り込むようにして、美琴の下着に絡みついた。

「ああっ……！」

ずるり、と下着が引き下げられ、張りのある艶やかなヒップと、美琴の秘密の部分が見え始める。それは少女ならではの淡いピンク色をしていた。

にゅっ♡

じゅっ♡

「なっ……何すんのよバカあつ！  
元に戻してよおっ……！」  
屈辱的な仕打ちに美琴は叫んだ。

「……ッ!」

背後から迫るモノの気配に  
美琴は気づいた。

「なっ……何これ……?」

美琴はそれを確認し、  
表情をこわばらせた。

そこには、  
他より一回り太い触手があった。

それが、ピクン…ピクン…と

卑猥に脈打ちながら

美琴の様子をうかがっている。  
先端部の形状は、  
まるで男性器を模したかのように  
いかかわしい姿をしていた。

ヌロリ……

異質な触手がゆっくりと  
美琴の陰部に近づき始めた。

ぬ

ぬぬっ

これから何が起こるのか、  
美琴は本能的に理解する。

「う……嘘。

そんなモノ、私に……?  
や、やめて……」

「いつ…やああつ…！」

触手の頭部が、美琴の大切なところに強く押しつけられた。

「くっ…うあッ！  
ンああああつ…！」

淡い桃色の谷をまさぐり秘穴への入り口を見つけると、触手は身をくねらせ内部への侵入を開始した。

にちゆり…にちゆり…と水気を含んだ淫靡な音を立て恥肉を押し分けて頭を穴に埋めていく。

あつ

ぬふっ♡

ぬ♡

ぬぐ♡

「…やだっ！

痛いっ…入ってこないでっ！

あああツ…！」

自分に入り込もうとするおぞましい感触と恐怖に、美琴は激しく狼狽した。

ぶる

ぶる

ズブリっ……!!  
何かが貫かれる音とともに、  
触手が一気に少女の膣内に  
潜り込んだ。

「うあああッ……!!」

悲痛な叫びとともに、  
美琴の体が大きく  
跳ね上がった。

「きゃっ……ひやうっ……!!」

あふああっ!!」

美琴に深々と突き刺さった触手が  
そのままうねり始める。  
鮮やかな小陰唇が  
動きに合わせていびつに歪んだ。

んはっ!

ズ  
ズ

ズ  
ズ  
ツ

ぬ  
ぬ  
ぬ

びくっ

「あっ……ああ、はうんー!」

ぬちやり……ぬちやり……と  
いやらしい音が美琴の耳を打つ。  
少女に対して本当の陵辱が  
開始された。

「いつ……ふあああう！  
やっ、あああッ……！」

触手はクネクネと、  
蛇のように踊りながら  
美琴の女の部分を楽しんだ。

ひしめく肉ヒダがかきわけられ  
膣壁がこすられて刺激されるたびに  
美琴が今まで知らなかった感覚が  
身体を走り抜ける。

「んんんんーっ！」

触手の圧力で押し広げられた膣口から  
赤い雫が一筋垂れた。  
それは、ほんの少し前まで、  
彼女が純潔だったという証である。

みちゅ♡

ぢゅ♡

ズッ♡

ふうん！

「ふあああ……あ……  
ひ、酷いよ……  
初めてがレ○プなんて……」

無様に犯されている  
惨めさと悔しさに、  
美琴の目から  
涙がこぼれ落ちた。

くっ！



















